

人工知能であれば、自律的に動いてほしい。そのためには人工知能は「意志」を持たねばなりません。自動的に動くプロセスと意志として動くプロセスはどう違うのでしょうか。それを今回は考えてみたいと思います。

「寒い」という感覚からは、自動的に「ストーブ焚く」、「炬燵に入る」、「スーパーに買い物に行く」などの選択肢が自動的に連想します。これは重み付け投票法で連想していくと考えれば良いでしょう。重み付け投票を管理するオブジェクトは、「夏」とか「冬」・・・「家に居る」というような状況で変えねばなりませんから、思いつき投票オブジェクトも他の状況オブジェクトから、投票によって選択されるものです。

自動的に動くシステムでは、この投票法だけで多数決決定するもので、「意志」はこの投票法で決定するものは行動の評価をするプロセスということになります。だから、「寒い」ときたら、「何をすべきかな」という評価プロセスオブジェクトを起動し、その評価対象オブジェクトとして、「ストーブ焚く」、「炬燵に入る」、「スーパーに買い物に行く」などの事象オブジェクトを入れ込む作業を起こすこととなります。この事象群は基本的に連想によって獲得しますが、評価プロセスの中で、更に適切な事象を検索していくことにもなります。

ということで、行動の事象オブジェクトには、行動の評価プロセスが連想され、その評価プロセスの対象オブジェクトセットに具体的な問題解決事象群を入れて、評価していくという処理機構が見えてきます。

おわり